

『家族の助け合い』

柳 翔吾

ぼくの家族は5人家族です。ぼくには高校生のお兄ちゃんと、中学生のお姉ちゃんがいます。ぼくは末っ子なのでついついわがママを言ってしまうです。でも家族ってそうゆうもんじゃないのかなって思います。ぼくが甘えたりわがママを言っても、ゆるしてくれるものじゃないかなって、助け合うものじゃないのかなって。そう思っ
て今まですごしてきました。

ある日、お母さんが手術するために入院することになりました。お父さんは、お母さんが居ない間、兄弟3人で助け合うんだぞって言いました。じゃあ今までと一緒にだと思いました。でも全然ちがいました。自分のことは自分でやって、できない人のことを手助けして、お母さんがいないのでお母さんがいつもしている家の用事もしなければなりませんでした。お兄ちゃんとお姉ちゃんは、お父さんに言われたこと以外にもすすんで自分からお手伝いをしていました。ぼくは何をしたらよいのかよくわからなくて、自分のことを自分でするだけで精一杯でした。

家族とは支え合うもの、助けあうものだとなりました。ぼくは助け合えていると思っていたけれど、家族に甘えていただけでした。もっと一人一人のことを考えて、やさしい気持ちで助け合っていきたいです。ぼくも家族の一員として、家族のみんなにたよられるよう
うなしっかりした人になっていきたいです。